

●四・一四へのあじろく 公正と正義を求め、ともに進みます

二〇〇一年四月二〇日／重信房子

私自身の逮捕と非をお詫びします

満開の桜が散り終える頃でしょう。目を閉じると、獄に居るのも忘れて、春が広がります。れんぎょうや沈丁花の匂う暖かい風が、光の中で踊ります。そして、この季節、レバノンのベカー高原に広がる真紅のけしの花の群れは、息を呑むほど美しいときです。また、地中海に落ちる太陽の最後の光を帯びて、岩場の真紅のけしが黄金色に染まる一瞬の美しいペイルートが見えます。目を閉じると、どこまでも自由が広がります。みんなと、この春の中を共に語りあえたら、どんなに嬉しいで

しょう。語りあえる自由を渇望しています。

民主主義の徹底を実現すること

私自身の不用意な逮捕と文書類の押収によって、心ならずも全く関係のない個人や団体にまで、家宅捜索や弾圧を許す結果となったことを、心からお詫びします。今にいたるまで「危険分子日本赤軍と関係」として、そうした方々の市民生活を脅かし、社会的信用を傷つけ、市民運動家や政党団体への弾圧を行う警察当局に抗議します。

私に尊敬し、信頼を共にすべきそうした方々の怒り、戸惑い、不信を招いたであろうある時代、ある状況の中で、

解散をもって新しい闘い方に挑戦

二一世紀の闘いの姿として描いていた方向を私自身のこれまでの役割を自覚するが故に、同志たちの意思として、ここに再び宣言します。

「国際主義と軍事を特性としてきた日本赤軍の歴史を二〇世紀のアラブの人民と社会の歴史に刻みます。そして、日本を起点とする世直しを開始するにあたって、日本赤軍の解散をもって新しい闘い方に挑戦します。私の仲間たちは、

怨歌、ロック演奏が行われた。自由発言では重信さん関連で弾圧を受けた人すべてが連帯した「反弾圧運動」の呼びかけが参加者からあった。支える会は裁判力、パ集めと支援者交流を目的に会報「オリープの木」を五月より発行する。

アラブと日本の新しい架け橋

今、満開の桜が散り終える頃でしょうか。満開の桜が散り終える頃までに成すべきことのうちの二つだった娘達の国籍取得が成り、四月三日、日本に帰国することができました。親身になって国籍取得と帰国に尽くされた大谷

の闘いは日本においては民主主義の徹底を実現することだと思つています。そして、人々の世直しの要求の量と質が広がれば広がるほど、平和的に世直しは実現できると確信します。問われているのは、人と人との関係を変えながら社会を変えようとする自分自身の関わり方かもしれません。

私には、日本赤軍の仲間たちが先生はじめ弁護士、法務省、外務省の方々、そして現地で様々な協力と支援に尽力されたレバノン大統領をはじめとするレバノン政府当局者に感謝します。

そして、娘へ。困難を越えてきてくれてありがとう。初めての日本、夢に見た日本で、私の旧友、これからの友と共に一つ一つ学びながら生きていく道を学び、アラブと日本の架け橋になってくれることを望んでいます。私たちが非合法非公然にしか担えなかった連帯が、あなたたちの時代には、日本とアラブの両国国民の連帯に発展し、はば広く築かれれば、こんな嬉しいこととはありません。

犯人一人が逮捕され、軍の関与が明らかに

四月二日、犯行に加わった暴徒の一人が逮捕された。彼はある軍関係者から労働者を排除することを依頼され、二七〇〇万ルピアを受け取ったことを認めている。また、この軍関係者がカテラ社の幹部と携帯電話で頻りに通話していたことも明らかにしている。

4/14「重信房子さん 訪日『歓迎』集会」

多彩な人とプログラム 多弾反運動の呼びかけも

二三日の初公判を一週間後にひかえた四月一四日、重信房子さんを支える会主催（協賛：救援連絡センター、人民新聞、月刊情況編集部、帰国者の

裁判を考える会、ウナデイコム）による激励の集い「重信房子さん訪日『歓迎』集会」が東京・文京区民センターで開催された。入場者には日本赤軍の解散と新生の声明といえる重信さんからのメッセージを含めた資料集が配られた。集会には獄中の日本赤軍メンバーに加え、日本政府に対して重信さんの釈放を訴えるパレスチナ帰還の権利国民会議準備会、サブラ・シャティールキャンプ人民委員会、ナジャ・ハワキム前レバノン国会議員、PFLP-IGC、PFLP政治局からのメッセージも

寄せられた。参加者は「噂の真相で知った」という二〇代の青年から外国人労働者支援の七〇代の市民活動家、笹島日雇労働者など約一〇〇人。開場前から集まりだし、初対面にもかかわらず会場準備運営を手伝う青年もいた。この他、蔵田計成、植垣康博、鈴木邦男、塩見孝也、松田政男各氏の姿も見られた。

集会では山中幸男氏の弾圧事情報告、大谷恭子弁護士による公判説明、宮崎学氏の反弾圧講演、岡本組によるレバノン報告の他、若松孝二監督による岡本公三さんの最新ビデオ上映の木まで。

「二一世紀、一番大切な価値として、私自身は人間らしさをも求める『公正』さを買おうと心に誓いました。特権にしがみつく、自民党政治も、警察官僚機構もまた同じです。失敗を隠し、聖人君子のように振舞った特権のしたで、制度疲労は進み、公平さ、公正が損なわれてきました。

今、満開の桜が散り終える頃でしょうか。満開の桜が散り終える頃までに成すべきことのうちの二つだった娘達の国籍取得が成り、四月三日、日本に帰国することができました。親身になって国籍取得と帰国に尽くされた大谷

